シグマ研究委員会

昭和56年度　第8回運営委員会議事録

日　　時　　昭和57年1月22日（金）　11：00～17：00

場　　所　　原研本部　第7，第1会議室

出 席 者　　原田（委員長　原研）

飯島（NAIG），大竹（富士），関（MAPI），塚田（日大），

中嶋（法大），久武（東工大），松延（住友原工），

更田，田中，五十嵐，菊池（原研）

オブザーバー：白方（動燃），椙山（東北大），松浦，松本，

浅見（原研）

配布資料

1. 前回運営委員会（56.12.11）議事録（案）
2. B.H.Patrick氏からNEA Data Bank Committeeのメンバーへの手紙
3. ENDF/B Pre-processing Codes
4. D.E.Cullen氏から五十嵐氏への手紙
5. 昭和57年度年会での核データ・炉物理合同特別会合
6. 昭和56年度シグマ研究委員会名簿
7. シグマ研究委員旅費使用計画及び使用実績
8. IAEA NDS の J.J. Schmidt氏から原田氏への手紙
9. 昭和57年度原子力学会年会プログラム・メモ
10. K.H.Böckhoff氏から更田氏への手紙
11. FP核データワーキンググループ活動報告

議　　事

1. 前回議事録確認

資料(1)により確認を行い了承された。

2. 学会特別会合報告

椙山氏より資料(5)により57年度年会における核データ・炉物理合同特別会合のプログラムが紹介された。

資料(9)により研究発表の概略のプログラムの紹介もあった。また，秋の分科会（神戸商船大）での指定テーマの説明もあった。

3. 特殊目的の核データ調査小委員会報告

浅見氏より12月23日に行われた小委員会の第1回会合の討議の概要について説明があった。これに関連して「特殊目的」の意味についての質疑，燃料サイクル核データＷＧの後の処置との関連について議論があったが，後者については後の議題改めて議論することにした。

4. 事務局報告

(1) 57年度実行予算要求（五十嵐）

57年度の核データセンター関係の実行予算要求の概要について説明があった。その中ではＪENDL−3作成費が認められていることが報告された。

(2) 旅費使用状況報告（浅見）

資料(7)をもとに，各ＷＧの旅費使用実績，年度当初の計画との関連等について説明があった。

(3) 資料紹介（五十嵐）

資料(2)の説明があった。Scientific Co−ordination Group (SCG)のメンバーについての提案に関するもので，2月15日までに返答することになっているので意見があったら出して欲しいとの要請があった。

資料(3)，(4)によりENDF／Bの処理コードのRESENDに問題があり，修正したRECENTコードが作成されていること，これら処理コードの国際相互比較への参加の要請のあったことなどが紹介された。

5. ＩAEAの予算削減について

原田氏から資料(8)によりＩAEA NDSの予算削減について説明があり，わが国としての対応方について討議を行った。予算削減はＮＤＳのどの部門にしわ寄せがくるのか，我が国の核データ活動へどう影響するか等について討論が行われた。

6. 燃料サイクル核データＷＧのポストＷＧについて

久武氏より核構造・崩壊データ専門部会内のＷＧリーダ間で討議した案について説明があり審議を行った。

その一つの案はORIGEN Ⅱの入力データの改訂作業のためのＷＧ（内藤氏（原研）にとりまとめを依頼する)の新設であったが，討議の結果，方向についてはほゞ了承され，核構造・崩壊データ専門部会内で更に検討してもらうことにした。

もう一つの案はトリウムサイクル核データ調査のＷＧの新設であったが，原子炉そのものが具体化していない現状ではU−Puサイクルと同じ調査はできないとの意見もあり，木村氏（京大炉）の出席の上，次回に検討することにした。

7. 核データ専門部会ＷＧの改組について

菊池氏より１月21日に行われた核データ専門部会の全体会合での討議結果について説明があった。ガンマ線生成核データＷＧ，ＦＰ核データＷＧ，核融合核データＷＧ（１部の作業のみ）は存続することにし，新たに評価ＷＧ，ファイル化ＷＧ（ともに仮称）を新設する。評価ＷＧにはＡ＜80，80Ａ＜180，180＜Ａによるサブ ＷＧを設け，実験法評価サブＷＧも含める。ＷＧリーダには飯島氏が当るとの案に対して議論を行い大筋については了承された。その際，プラ研のデータベース関係者（名大）を核融合核データＷＧへ入れたらどうかとの提案があり，ＷＧで検討することにした。

8. 各ＷＧの57年度計画

五十嵐氏より各ＷＧの次年度計画の説明を次回及び次々回に行うとの予告があり，すでに資料があったＦＰ核データＷＧについて資料(11)により説明があった。次回は東海にいるＷＧリーダに資料をもとに説明してもらうことにした。

9. 研究会の反省

五十嵐氏より昨年末の研究会について日の浅いうちに反省しておきたいとの提議があり意見の交換を行った。主な意見は次の通り。

◦10分講演を止めたこともあり，全般的に話がまとまっていてよかった。

◦基調テーマがぼけていた。

◦質疑応答の時間が不足していた。

◦予稿集があるとよい。ＯＨＰの原稿のコピーを配布して欲しい。

◦Discrepancy Fileのテーマだけで個々のものを議論してもよかった。

◦プログラムを早目に決めて，学会誌にアナウンスするのがよい。

◦研究会の報告を世話人が学会誌へ投稿したらどうか。

◦質問のメモは必ず出して欲しい等々。

この結果，今後は基調テーマを決めること。予稿集や学会誌への投稿等は事務局で検討することにした。

10. ＪENDL−3編集体制について

議論の切っ掛けをつくることから飯島氏よりJENDL編集の推進，交流を密にすること，JENDLファイルのＰＲのための比較プロットなどのために現在のJENDL CGを再検討したらどうかとの提案があり，討議を行った。また，ＣＧ側からは現状についての説明があった。メーカー側から人を出してＣＧを強化する点についてはほゞ了承がえられたが，具体的な点までは議論に至らなかった。また，このような作業を委託する可能性についても議論があった。これらに関連して，原田氏より，原研で春休みの実習生制度を検討している旨の説明があった。

11. 委員会人事について

飯島氏より運営委員を交代したいとの発言があり，運営委員会の構成等について議論が行われた。主な意見は次の通り，

◦運営委員の年数を限って交代したらどうか。

◦層が薄いときは後任を推薦してから交代してもらわないと困る。

◦運営委員になっていないと情報がわからなくなるのが困る。

◦機関で誰か入っていないと困る。

◦ＷＧリーダがすべて本委員になる必要はない。

これらのことから，現在の運営委中心の資料配布をより拡張する方向で事務局で検討することにした。また，これに関連してシグマ委員会の活動を核データニュースに積極的に掲載したらどうかとの意見があり，議事録をのせ

るかどうかについて議論があったが，事務局で検討することにした。

また，これらの議論の過程で，山本氏（FBEC），中沢氏（東大）の運営委員への推薦，大村氏（プラ研），長谷川氏（原研）の本委員への推薦があった。

12. そ の 他

五十嵐氏よりBockhoff氏からの手紙（資料(10)）が紹介された。Antwerp Conf.におけるcategory Aの invited talkについての問合せであって，これについて意見があったら2月10日までに核データセンターへ連絡して欲しいとの要請があった。

また，原田氏より資料"Nuclear Data for Fusion Reactors"の紹介があり，希望者にはコピーを配布することにした。

次回は2月22日（月） 13：00～ 東海研で行う予定。